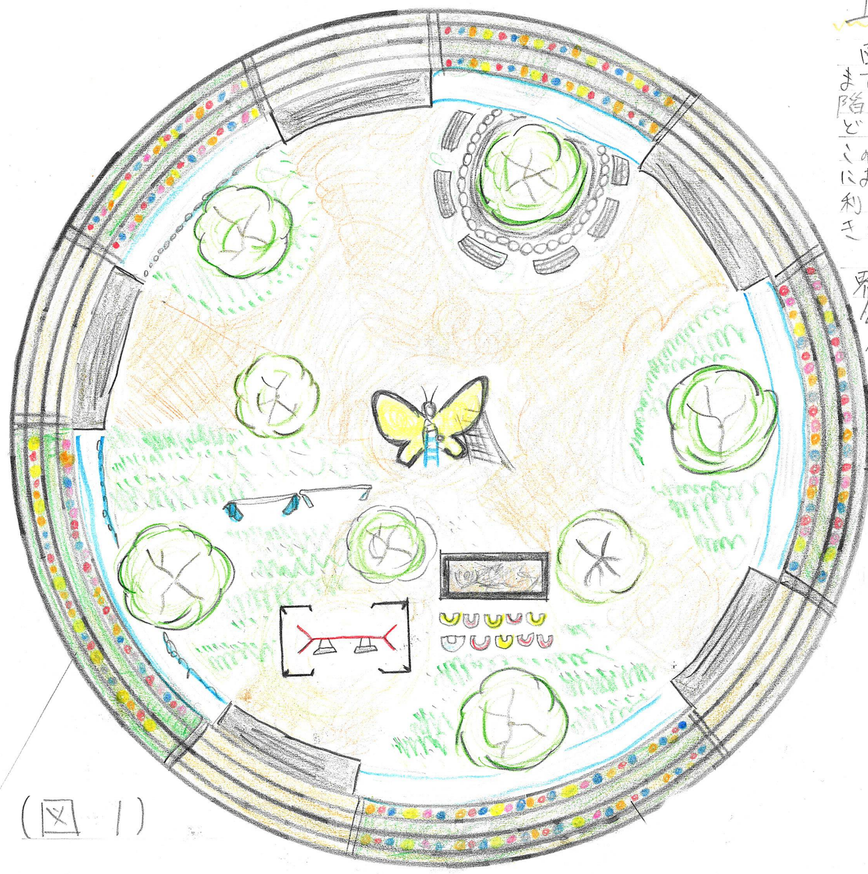
フラワーパーク

長野県は山々に囲まれ，豊かな動植物たちが目立ちます。環境問題を考えるということは，これら動植物たちを守ることであり，そのためにはまず人間一人ひとりが「自然との共存」を意識しなければいけないと思います。「自然との共存」をテーマに作成したこの公園には，山などの自然界を意識させる工夫を凝らし，利用する人たちに自然を守る心を芽ばえさせることを想定しました。



(図1)

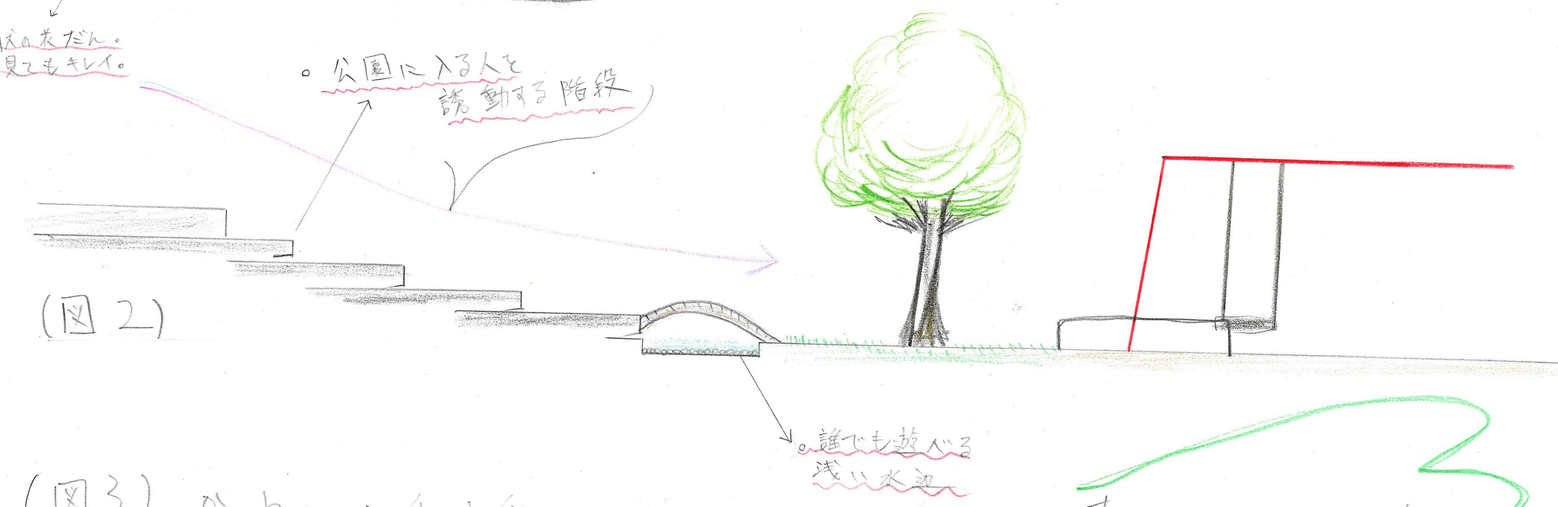
工夫1 ・円形の階段

図1，図2のように，この公園は円形で，広場までは，ゆるやかな階段があります。この下りの階段を作った理由は，1つは利用する人が360°どこからでも吸いこまれるように入れることです。このようにしておけば，利用者は下り階段の効果により，自然と公園内に入れ，円の中心，つまり利用者たちの行き交う広場に向けさせることができます。

2つ目の理由は，公園内と外の町との境界をつくることです。階段による高低差で，公園内にいる人たちに外と中との心の境界ができ，町の中にいることを忘れさせるはたらきが予想されます。逆に外からは公園の豊かな植物たちと町並みとの一体感により，公園に入らずとも自然を意識することができるので，外からも中からも都合のよい境界であるといえます。

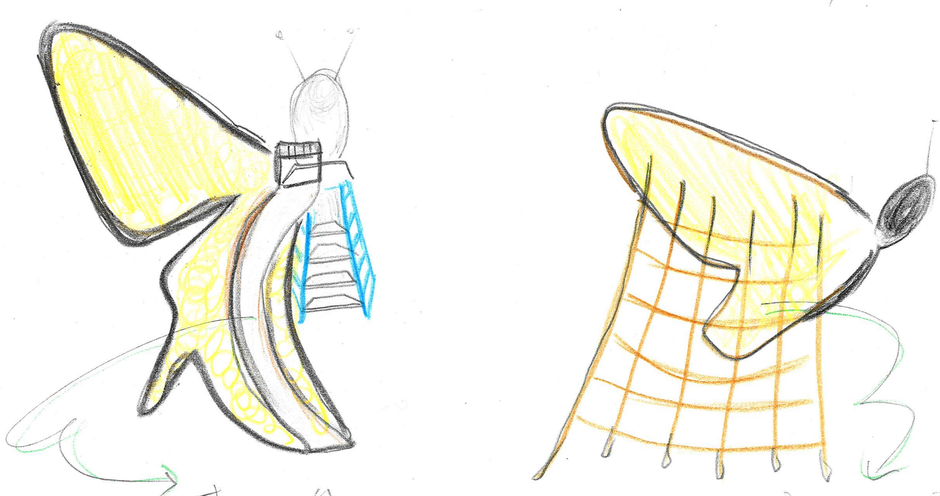
工夫2 豊かな自然

木，草花，水，土が，自然界の要素だと思い，図1のように利用者の動線上に木，草花がくるようにし，川をイメージした公園内を一周する水辺の上には，色とりどりの花が咲いている，緑の多い公園にしました。



(図2)

(図3) かわいいチョウチョウのアスレチック



工夫，メインのアスレチック

山にはたくさんの虫がいます。自然との共存をテーマにしたこの公園にも，アスレチックとして虫を遊具にとりしみました。

公園内を見わたしやすい円の中心にアスレチックを置くことにより，利用する子どもたちの目にはごく自然に緑や花が入ってきます。

「自然との共存」という考えを子どもの頃から芽生えさせることはとても大切だと思い，このようにしました。

最後に… 個人的に公園にソーラーパネル等不必要と考えた作品です。